



マレーシアでの「出会い」が 教えてくれたこと

総合科学部 社会総合科学科 3年 谷 優希 (たに ゆうき)



筆者(右)



ペナンビーチの夕日

私は2023年2月から5か月間、マレーシアのマラヤ大学に交換留学をしていました。元々英語が好きで「在学中に長期留学プログラムに参加する」という夢を叶えるべく徳島大学に入学し、新型コロナウイルス感染症が収束に向かい始めた2年生の秋に他の提携大学よりも一足早く募集が再開したマラヤ大学への留学を決めました。留学＝英語圏のイメージが強かった私は、マレーシアのような東南アジア諸国への留学は全く考えていませんでしたが、「このまま留学せずに卒業すると後悔する」という思いから自分で半強制的に参加を決めました。そんな突発的に選んだ留学先でしたが、そこでの経験は私をあらゆる面で成長させてくれる、たくさんの素敵な出会いで溢れていたのです。

マラヤ大学での思い出

マラヤ大学は首都クアラルンプールに位置しており、自然豊かで広大なキャンパスと在籍する多国籍の学生が特徴的です。授業ではグループでのプレゼンテーションやディスカッションが課題として頻繁に与えられるため、ハイレベルな他の学生と共に「英語で」学ぶ毎日はとても刺激的かつ貴重な経験でした。また、課外活動としてLanguage Clubにも参加しており、私は日本語クラスのチューターとして、現地学生や他の留学生に日本語や日本の文化について毎週レクチャーを行っていました。回を重ねることに参加学生数が増え、自分たちの力でたくさんの人が日本に興味を持ってくれることに大きなやりがいと達成感を感じたことを、よく覚えています。

仲間との出会い

私は留学中、大学寮で3人のルームメイトと暮らしていました。授業がない日には4人そろってショッピングに行ったり、お互いの国の料理を作ってシェアしたり、それぞれの国の言語を教え合ったりと、一緒に過ごした時間

は全て大切な思い出です。また留学中に会った仲間の多くは、自分の夢について自信を持って語り、それに向かって一生懸命に努力している姿が印象的でした。そんな彼らと話をすることは自分自身の将来についても深く考えるきっかけとなり、「もっと頑張ろう!」という私を奮い立たせてくれたのです。みんな、今でも連絡を取り合うかけがえのない存在になりました。

終わりに

この留学を通して、私はたくさんのことを学び、得ることができました。語学力はもちろんですがそれ以上に、困難な状況を乗り越える力・国籍を越えた仲間とコミュニケーションをとる力・目標に向かって努力し続ける力など、たくさんの自己成長を実感しています。「留学＝語学力の向上」だけでは決してありません。「新たな自分を発見したい」と思う人こそ、留学を手段としてぜひ挑戦してほしいです。必ず、皆さんの人生に大きな影響を与えられる唯一無二の貴重な経験になりますよ。最後になりましたが、この留学プログラムに参加するに当たって

たくさんのご支援をいただきました。教職員の方々をはじめとするすべての皆さまに、心から感謝を申し上げます。



キャンパスツアーの様子



Language Clubでのひとこま



ルームメイトと一緒に